

患者さんへ

「終末期がん患者への中心静脈ポート留置における
COVID-19 パンデミックの影響についての後方視的研究」
の研究のご説明

奈良県立医科大学附属病院 放射線・核医学科、緩和ケアセンター
准教授 西尾福 英之

【研究課題】

終末期がん患者への中心静脈ポート留置における COVID-19 パンデミックの影響について
の後方視的研究

当院研究実施体制

実施責任者： 奈良県立医科大学付属病院 放射線・核医学科 准教授 西尾福 英之

実施分担者： 奈良県立医科大学付属病院 放射線・核医学科 教授 田中 利洋

助教 豊田 将平

助教 松本 武士

総合画像診断センター 助教 佐藤 健司

奈良県立医科大学付属病院 中央放射線部 IVR センター 兒玉佐和、榎谷陽子、山中委豆
美、船田佳予子、北口千寿子

【研究背景】

皮下埋め込み型中心静脈ポート(Central Venous; CV ポート)は、がん患者に対して抗がん剤投与、栄養や点滴ルート確保目的で使用する医療機器です。本邦では、高齢化が進みがん患者の増加が続いており、がん患者に対する薬物療法目的の CV ポート留置が普及している一方で、がん治療の経過中や後である終末期患者に対しても在宅療法目的の CV ポート留置が拡大してきています。しかしながら、2020 年に発生した COVID-19 パンデミックにより感染者の受け入れ先の一つとなっている大学病院では、がん患者の診療や療養先にも変化が生じていたことが予想され、CV ポートの役割にも変化が生じていた可能性があります。特に終末期がん患者に対しては、CV ポートは重要な役割を担っていることから、今回の研究では終末期患者を対象として CV ポート留置の意義について後方視的に調査します。

【研究目的】

COVID-19 パンデミック前後での当院における終末期がん患者への CV ポート留置の現状を調査しその意義を検討することです。

【研究対象】

研究対象となる患者様は、2017 年 4 月から 2023 年 3 月に当院で CV ポート留置術を行った全症例 1046 例の患者様です。

【研究方法】

2017 年 4 月から 2023 年 3 月の間に当院 IVR センターで CV ポートが留置された患者様を抽出します。留置後の患者様の診療録を確認させていただき、留置目的、留置後の合併症、

留置後の療養場所、生存期間について調査します。これらの項目について、COVID-19 パンデミック前後でどのように変化したかを調査します。

【研究期間】

この研究は、奈良県立医科大学の学長による実施許可日から 2026 年 3 月 31 日まで行う予定です。

【当該研究に参加することにより期待される利益および起こりうる危険ならびに必然的に伴う心身に対する不快な状態について】

対象患者様が受ける利益・不利益はありません。

【個人情報の取り扱い】

当院で症例を扱う際、収集した情報は名前、住所、年齢など患者様を直接特定できる個人情報を除いて匿名化いたしますので、個人を特定できるような情報が外に漏れることはありません。また、研究結果は学術雑誌や学会などで発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。

【その他】

本研究は、本学の医の倫理審査委員会の承認および学長の許可を得て実施します。

本研究は、過去に施行された情報を後方視的に検討するのみであり、この研究のために患者様に新たな検査や費用が追加されることは一切ありません。また、研究の対象となる患者様に謝礼はありません。この研究によって得られた知的財産の所有権は研究組織および研究者に属します。

上記の研究の対象に該当する患者様で、ご自身の情報などの研究への使用をご承諾いただけない場合には、奈良県立医科大学附属病院 放射線・核医学科までご連絡ください。

【研究実施体制】

研究責任者

奈良県立医科大学 放射線・核医学科、緩和ケアセンター 准教授 西尾福英之

研究分担者

奈良県立医科大学 放射線・核医学科 教授 田中利洋、助教 豊田将平、松本武士

奈良県立医科大学 総合画像診断センター 助教 佐藤健司

奈良県立医科大学附属病院 中央放射線部 IVR センター 児玉佐和、榎谷陽子、山中委豆美、船田佳予子、北口千寿子

研究協力施設

奈良県立医科大学附属病院

【問い合わせ先】 西尾福英之（奈良県立医科大学附属病院 放射線・核医学科、緩和ケアセンター）

連絡先 0744-22-3051（代表）、3467（内線）

E-mail: rad@naramed-u.ac.jp